

はばたき

上中学校図書館通信

2020年<夏休み前特大号>

上中学校図書委員+学校司書佐藤典子

上中のナツイチ～図書委員のオススメ本～

今号では、図書委員が「上中のみんなにぜひ読んで欲しい」と選んだオススメ本を全力で紹介！図書館で特集していますので、ぜひ借りに来てください。夏休み前のため、今なら「だれでも5冊」借りられますよ。夏のおともにぜひどうぞ！

『桜のような僕の恋人』

宇山佳佑



一度はカメラマンの夢を諦めたが、美咲に出会い再び夢を追い始めた晴人。そんな晴人に美咲も惹かれていくが、美咲はある難病を発症してしまい…。

二人の純粋さや、現実の悲しさがそのまま伝わり、家族や身近な人たちを大切にしたい、と改めて思えるような一冊です。(3年4組 H.E.)

『モモ』

ミハエル・エンデ



人の話を聞くことが得意な少女モモ。道路掃除夫ベッポや観光ガイドのジジなど、たくさんの人に出会い、物語が作られていく。しかし、モモの知らないところでは灰色の男たち、「時間どろぼう」の悪の世界が迫ってきていた…。

この本は、時間の大切さについて教えてくれる本です。現実ではありえない出来事が起こるところも見どころです。(2年2組 M.Y.)

『か「く」し「ご」と』

住野よる



仲の良い5人の高校生、通称ミッキーとパラとツカ、エル、京くん。5人は性格も得意なこと違います。しかし、ひとつだけ似ているところがあります。それは、人の感情を頭の上に表示される記号で読み取ることができること。でも、そのことは自分以外誰一人知らない「かくしごと」です。たくさんの「かくしごと」から生まれるたくさんの感情を作者が考えた1冊です。

1話ごとに主人公が変わり、すぐに飽きちゃう人でも読める話です。映画「君の隣をたべたい」でも注目を浴びた作者による学園モノ。みんなの気持ちをのぞいちゃいましょう。(1年5組 K.M.)

『むかしむかしあるところに、死体がありました。』

青柳碧人



この本は昔話をちょっぴりといじった本です。有名な話がミステリーとして登場します。

最後解決した時「ああ、そういうことだったのか。」とすっきりした気分になります。さらに短編なので、自分の好きな話から読むことができます。(1年4組 U.I.)

『最後の晩ごはん』

ふるさととだし巻き卵』

榎野道流



元イケメン俳優だった五十嵐海里は、ある事件のため芸能界から追い出されてしまう。しかたなく実家に帰るが、家族からもあてにされず…。そんな中、彼を拾ってくれたのは、定食屋を切り盛りする夏神留二という人だった。その定食屋は、教会と警察署の間にはさまれた不思議な店。深夜すらも営業時間内?! 付喪神ともデコボココンビに…。個性溢れるキャラクターもたくさん登場するシリーズ本。料理に興味がある人にもオススメ!(2年5組 K.K.)

『この夏のこともどうせ忘れる』

深沢仁



書き下ろしの5編が詰まった青春小説です。一冊まるごと読まなくても楽しめます。一つ一つの物語がとてもおもしろいので、ぜひこの夏に読んでみてください。

(1年3組 H.T.)

『僕が七不思議になったわけ』

小川晴央



超がつく程の心配性の高校生、中崎夕也は、学校にスマホを取りに行った夜、七不思議の一番目、テンコと出会う。「おめでとう、今この瞬間、この学校の新しい七不思議にお主は選ばれた。」しかも、勝手に七不思議に登録されてしまっ…!?

思わず「えっ?」と言ってしまふような結末でした! ぜひ読んでみて下さい。(1年2組 S.N.)

『探偵・日暮旅人の探し物』

山口幸三郎



皆さんにも、物をなくした経験があると思います。そんな、誰にでもおこりうる探し物専門の探偵・日暮旅人は、4覚がないのですが、それを補えるほど視覚が優れており、音や痛みなども目で見るすることができます。4覚がないということは、触覚もないので、とても不器用で、皿を洗うたびに落としてしまいます。そんな旅人を支えるのは、幼稚園生の山代灯衣です。灯衣は、小さいながらも完璧に家事をこなします。この本は、こんな旅人の話です。

この本の面白いところは、いつもはダメダメな旅人が、能力を使って人の探し物を見つけるところです!! 日暮シリーズの1作目なので、興味があったら是非!! ドラマもあるのでぜひみてください!! (3年3組 K.Y.)

『東京バンドワゴン』

小路幸也



この本は、ある下町にある古本屋「東京バンドワゴン」と、その店を営んでいる8人の大家族の日常を描いたものです。が、まずこの話に登場している人物の個性が強く、60歳で金髪の伝説のロッカー、年中違う女性が家に押しかける美男子、さらには、語り手の立場やこのお店も特殊で、読んでいてあきることがありません。また、8人という大家族なので、そんな大家族ならではの日常も書かれています。

今年の夏に泣いたり笑ったりしたい人にオススメです。(3年1組 K.I.)

『三毛猫ホームズ』シリーズ
赤川次郎

主人公がいろいろな怪事件を解決するという一般的な事件物語です。事件物語の中には感情移入しやすいものと、しにくいものがあります(読む人にもよるかもしれませんが)。が、この本は比較的感情的移入しやすいと個人的には思います。感情移入すると、主人公や犯人、その他の登場人物が何を考えているのかが分ったりして、より楽しみながら読むことができます。

(2年3組 Y.W.)



『君は月夜に光り輝く』

佐野徹夜

岡田卓也がプリントを渡しに行って「発光病」で入院している渡良瀬まみずと知り合う。ある日、卓也はまみずのスノードームを壊してしまう。その罪滅ぼしをするため、余命が短いまみずが死ぬ前にしたいことを、かわりに卓也がしていき、その感想などをまみずに伝えていくという話。

<面白いところ>まみずがしたいことをかわりに卓也がすること。まみずと卓也のやりとりが面白いです。

(2年1組 M.H.)



『虹色ほたる 永遠の夏休み』
川口雅幸

ある男の子が父親との思い出の場所へ行き、いつのまにか少し昔にタイムスリップしてしまうお話です。最後には感動で涙が止まらなくなる、あたたかいお話です。



(3年6組 Y.T.)

『マスカレード・ホテル』
東野圭吾

この本を読んで、最初はぜんぜん犯人がわかりませんでした。が、最後まで読んだら意味がわかってとてもいい本だと思います。

ぜひ読んでください。(1年1組 T.M.)



『県庁おもてなし課』

有川浩

この本は、高知県庁に設置されている「おもてなし課」が、高知県を観光名所にすべく奮闘する物語です。

この本を読んで面白かったところは、物語が進むにつれて、登場人物の心情や関係性が明らかになるから自然とページが進むということと、もう一つは、ひたむきに頑張る姿を見て応援したくなってしまふところなんです。ぜひ、読んでみてください。

(3年2組 K.M.)



『もっと知りたい動物園と水族館』

小宮輝之

この本は、水族館や動物園にいる動物の雑学のようなことがいっぱい書かれています。夏休みに水族館や動物園に行く予定がある人にオススメです。

この本を読んで、情報をよく知ってから行くと何倍も楽しくなると思います。また、友達や家族にこの本で得た知識を教えるのも楽しいと思います。

(2年6組 R.N.)



『十二国記
月の影影の海 上・下』
小野不由美

十二国記シリーズのEpisode1。主人公である陽子が知らない異世界に迷い込んでしまい、もとの世界にもどるために冒険をする物語です。その異世界のことがだんだんわかってきて、物語の進み方がとてもおもしろいです。



(1年6組 T.S.)

『書を捨てよ、町へ出よう』
寺山修司

退屈な人生にトドメを刺す一冊。家出の方法、ハイティーン詩集に、競馬など。

現実か想像か話の内容がわからない。自伝的に私たちに語りかけてくる、とても刺激的な本。

(3年5組 S.H.)



『さらにざんねんな
いきもの事典』
今泉忠明(監修)

この本は世界一受けたい授業でも紹介され、続編が出されるほど人気で、自分たちが今まで気にもとめなかったことがのついています。この本の面白いところは、いろいろな動物のざんねんなところが絵で表現されているところや、左下にパラパラマンガがあるところです。

(2年4組 S.H.)



いかがでしたか？ 紹介した本は2学期中もしばらく展示しますので、朝読でもぜひ読んでみましょう。

<今後の開館予定>

7/27(月)、29(水)、31(金)・・・放課後開館
8/17(月)～20(木)・・・休館
8/21(金)・・・放課後開館
8/24(月)～・・・月・水・金放課後開館します